

第3回策定委員会の意見

	意見	策定委員会での事務局の回答	今後の検討事項等
1	前回の策定委員会で市民アンケートの回収率が36.9%しかないのは内容が分かりにくかったためという意見が出ていたと思うが、回収率を上げるという目標はあるのか。	回収率の目標値は設定していない。前回の策定委員会でもアンケートの設問の表現が難しいとのご指摘を受けているため、内容の見直しの検討を行いたいと考えているが、経年変化での調査を実施しているため、設問自体の大幅な変更はできないので、「回答しやすい」、「回答したくなる」ようなレイアウトへ変更するなどの修正も検討したい。	設問の内容を変えない範囲での表現方法の変更
2	73ページ（最終案：P79）の福祉ボランティアの登録者実績数が1,921人で32年度目標値が2,620人になっている。この、福祉ボランティア登録者数というのは、いきいきサロンや、ボランティア連絡協議会等、どういう団体がこの中に網羅されているのか。	福祉ボランティア登録者数については、現在社協で取り扱っているボランティア保険の加入者数を掲載している。サロンの協力者のうち、保険に加入されていない方の把握はできていない。ボランティア連絡協議会に加入されている会員については、全員保険加入しているので、この中に含まれる。	
3	74ページ（最終案：P80）の「ふれあい広場の開催」の下「今後の・・・」のところ、「参加団体と共に」という文言について、以前、実行委員会を設置したことがあって、全体の実行委員会は機能していたが、その中の企画委員会みたいなものがうまく機能せず、企画は社協でされていた。「参加団体と共に・・・」の参加団体というのはどのような団体が参加団体なのか。	実行委員会については、現状の2回の説明会でも、団体によっては簡素化してほしいという意見もあり、ふれあい広場については実行委員会形式ではなく、参加団体に参加意向を聞いて、事前に2回程度打ち合わせを行っている。事前アンケートや反省会の中で出された意見を基に、来年度についてまず内部で検討し、それを基にまた意見をいただきながらということ、参加団体とともにという言葉を使っている。	
4	70ページ（最終案：P76）の「子どもの貧困等生活困窮世帯への支援」の「【今後の取組内容】」について、「関係団体と調整し、平成30年度実施に向けて取り組みます」というのは、なにかイメージされているものがあるのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ まず重視したいところは、子どものいる困窮世帯で、スクールソーシャルワーカーなどと一緒に進めている。社協での役割は、支援についてのPR、困っている方に対して何かできる方からの働きかけを、ワンクッションとなってつなげていくということと考えている。継続的な部分での自立に向けた支援を実施していきたい。 ・ 地域での現状の把握や細やかな対応等は、地域活動や民間団体での実施の方が実効性があり、地域福祉の推進のためには協働が必須となると思われる。行政や公共的な団体である社協は、民間団体等の取組を支援していきたいと考えている。 	回答のとおり実施に向けて検討する。

	意見	策定委員会での事務局の回答	今後の検討事項等
5	<p>シルバー人材センターについて、積極的にアピールしていくとか、登録者を増やしていくという動きもだんだん必要になってくるのではないか。</p>	<p>シルバー人材センターは、センターに登録後、仕事の紹介を受けるという形でお勤めされるのがほとんどで、登録者数は大幅に減ってはいないが、微減している。 シルバー人材センターも組織の拡大に努めているが、たとえば、草刈りは年間を通して受注があるが、特に夏の暑い間に依頼が集中するなど、需要が偏在してしまい、自分がやりたい仕事と実際にある仕事とがうまくいっていないというようなところもあるようだ。</p>	<p>生活支援等、今後ニーズの増加が見込まれる分野の人材や体制の確保について、シルバー人材センターとともに検討する。</p>
6	<p>69ページ（最終案：P75）「65歳以上の一人暮らし老人会食会」には、25.7%の参加者しかいらっしゃらない。地域包括でも独居老人の方を訪ねて行って、いろいろお聞きしようとしても、ドアもあけていただけない。特に、鳥栖市外から入ってこられた方。そういった人たちの社会参画を通じて、コミュニケーション機会の提供につなげていくための対策を、見守りを含めてどういうふうなかたちで増やしていくのが今後の課題である。</p>	<p>「一人暮らし老人会食会」については、ここ数年、参加者数は伸びていない。実施町区もほぼ同じところが実施されている。社協も区長会等で呼びかけはしているが、伸びていない。 「ふれあいいきいきサロン」は、同じく、高齢者を対象とした事業であり、社協で地区社協を通して支援している。二つを合わせたところで、どういったかたちで地域での高齢者の居場所や社会参加の場を広げていくことができるのかということ、今後検討していきたい。参加者の増減について即答は出来かねるが、回数は増えてきている。実施町区も伸びてきているし、年間の回数も伸びている。</p>	<p>回答のとおり実施に向けて検討する。</p>